

ふるさと沼津第一



沼津麓校区の 歴史探索

平成29年6月15日 第6号

発行：第一地区コミュニティ推進委員会



この会報誌は第一地区の歴史発見事業の一環です

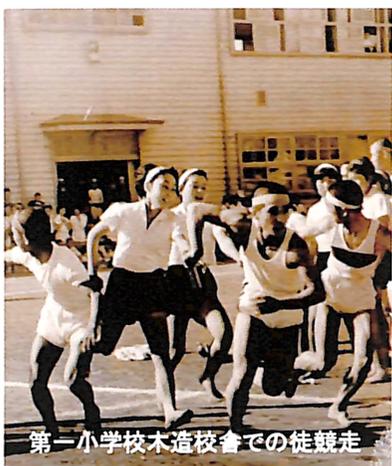
多くの店が軒を連ねた

職人の町 末広町

その昔、現浅間神社の裏一帯を東宮後町とよみました。神社（宮）の後ろという意味です。その西側一帯が西宮後町でした。さらに現在の末廣神社のあたりは山神道とい、江戸時代には大きな榎などがあって、現在の第一小学校の敷地も含めて、うっそうとした森があったそうです。さらにここに出口見附と栄町を加えた地区が合わさり、いつのころからか、末広町と呼ばれるようになりまし

た。末広町は、職人の町であり、多くの店が軒を連ねていました。

桶屋、石屋、籠屋、菓子屋、左官、下駄屋、文房具店、そば屋、靴屋、木工所、床屋、酒屋、写真店、貸衣装店、貸自転車店、たいこ屋、表具店、床屋専門のはさみを扱う店



第一小学校木造校舎での徒競走

など多くの店がありました。

戦後の復興期を経て、職人の仕事への需要も多かったことから、東京オリンピックの開催された昭和39年頃をピークにと

ても活気があったということですが、現在まで続いているお店も多く、商業の発展した沼津の礎となった町であるといえます。



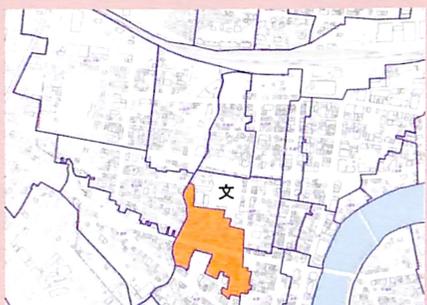
貸自転車店もありました



大正9年の末広町のお祭りの様子

町名の由来を尋ねる

～末広町～



浅間神社（宮）の後ろの東宮後町、その西側一帯を指す西宮後町、現在の末廣神社のあたりは山神道、出口見附、栄町を加えた地区が合わさり、いつのころからか美称として、末広町と呼ばれるようになったということです。

このコラムは、静岡新聞社発行の「町名の由来」などを参考に作成したものです。

わたしの思い出 あの時のこと

このまちのことは、この人に聞け!

このコーナーでは小学校の思い出や空襲後焼け野原となったまちが、復興を遂げていくさまなどを、まちの「重鎮」にお聞きします。

○戦後の第一小学校の様子や終戦直後の町の様子などを教えて下さい。

(勸山) 中学まで沼津にいましたが、戦争で中国大陸に渡り、そこで終戦を迎えました。帰国後、実家の眞楽寺の住職になりました。自分で24代目です。その時の町は、焼け野原でした。何もかも焼けてしまって、寺は、礎石しか残っていませんでした。その礎石の上に、檀家の皆さんに腰かけていただき、今後のことを話し合いました。皆さんが食うや食わずの時代、法事などもできず、昭和30年ごろになってやっと皆さんの生活が落ち着いてきて、できるようになってきました。

(市川) 子供のころ空襲があり、防空壕に避難しました。昼ごろによく空襲がありました。第一小学校近くの西幼稚園近くに防空壕があり、避難したのを憶えています。私の家の稼業は、和菓子屋で2代目です。戦後は、甘いものに飢えていた時代でした。甘いものといえば、サッカロインをつかったお菓子が多かったですが、うちでは、使いませんでしたね。ただし砂糖が貴重な時代、どうやって父親が仕入れをして

いたのか、それは分かりませんが、きっと大変な苦労をしたのだと思います。

(堀江) 当時末広町には、測候所がありました。またローラースケート場もあり、子どもたちはよく遊びました。また八幡町にあった産業会館(現保健センター)でプロレスの試合を見たのをよく覚えています。娯楽に飢えていた時代でした。第一小学校は、空襲で焼けてしまったので、一時期青空教室でした。そんな中、小学校で映画を上映することもあり、学校が楽しかった時代ですね。毎日学校で遊んでいました。



思い出を語る、左：堀江功さん（75歳）と中央：勸山弘さん（98歳）右：市川智さん（80歳）



お宝写真コーナー



▶戦時中のバケツリレー訓練の様子（末広町：塩澤さん提供）



▲大正14年のお祭りの様子。（末広町：堀江さん提供）

求ム！ まちのお宝

昔の写真や資料の情報をお寄せ下さい

1868年、日本最初の近代的小学校とされる代戯館（だいぎかん）が現在の上本通り付近に開設されました。これが沼津市立第一小学校の前身となっています。平成30年に創立150周年を迎えることを記念して、第一地区コミュニティ推進委員会では、歴史再発見事業を行うこととしました。今年は、いろいろな資料を集めていく予定ですのでご協力をお願いします。（第一地区センターURL：palangel.jp/r2/us/daiichi/）

みなさんのお宅に眠っている昔のまちなみの写真や懐かしい道具がありましたら、お知らせください。

